

## 受診勧奨時の医師への紹介状の作成と来局者への交付

来局者の症状、健康状態が医療機関への受診勧奨が必要な状態であると判断した場合は、来局者に「かかりつけ医」への受診を勧める。しかし、症状によっては特定の診療科の医師、あるいは総合病院への受診勧奨となる場合もある。いずれの場合でも、受診勧奨した薬剤師が来局者に紹介状を作成して手渡すことにより、来局者に受診を促し、安心感を与えることができる。患者の紹介により地域において医師、歯科医師との医療連携を行うことは重要な薬剤師の任務である。

以下に、受診勧奨する際の一般的な紹介状の記入項目を挙げた。必要に応じて、下記以外の特記事項を記載することができる。

### 紹介状の記入項目

①宛先：紹介先の医療機関名、医師名を書く。「××××病院 ○○○○先生侍史<sup>注)</sup>」などの記述が一般的である。

②あいさつ：「平素から大変お世話になりまして誠にありがとうございます。この度、下記の患者様を紹介させていただきます。」などのあいさつ文を文頭に置く。

③来局者の氏名、性別、年齢、来局日など：来局者の氏名、性別、年齢、来局日などを書く。「氏名：○○○○様、性別：男性、年齢：××歳(平成○○年○月○○日生)、来局日：△月□日」のように箇条書きにしてもよいし、「この度、△月□日に来局した○○○○様、男性、××歳(平成○○年○月○○日生)を紹介させていただきます。」などのように文章として記してもよい。必要があれば、来局者の住所地、職業、生活状況なども記す。

④症状(主訴)・現病歴など：症状(主訴)について、とくに受診勧奨したことに直接関係する症状についての「OPQRST」(※ 9-2 情報収集による臨床推論)の各項から必要なものを選び出して簡潔に記述する。他に罹患している疾病や治療中の疾病、過去の病歴、併用薬、アレルギー歴、副作用歴などがあれば、これらについても簡潔に記載する。また、来局時のバイタルサインがあれば、「血圧：○○/×× mmHg、体温：△△℃」のように記入する。

症状から推定できる病名があれば記してもよいが、「○○○病(症)であることを疑い、受診を勧めました」「○○○病(症)である可能性を考え、受診を勧めました」などの表現で記載し、断定的な表現は避ける。

医師が多忙な診療時間内に読む文章であるので、必要事項を簡潔かつ的確に伝える文章力が求められる。症状などを簡潔にまとめた文章の具体例は臨床医学各分野の学会などが発行する学術雑誌にしばしば掲載される「症例報告」によくみられる。普段から「症例報告」が記載された論文などを読んで症状などの簡潔な表記法を身につけておくと、紹介状を書く際のみならず薬剤服用歴、症例報告などを記入する際にきわめて有用な技能となる。

現在の内服薬(使用薬)、使用した OTC 医薬品があれば、それらの種類、使用量、使用後の経過などについても記す。

⑤結び：「お忙しいところ恐れ入りますが、よろしくご高診下さいますようお願い申し上げます。」などの文章で結ぶ。

⑥紹介した薬剤師氏名、薬局名、連絡先、紹介状記入日(交付日)：最後に、紹介状を作成して来局者に手渡した薬剤師の氏名、連絡先(薬局名、所在地、電話番号、メールアドレスなど)、紹介状の作成日(来局者に手渡した日)を記入する。

上記のうち、定型化された文章や薬局名、薬局所在地、連絡先などがあらかじめ記載されていて、それぞれの来局者で異なる部分のみを記入または入力すれば紹介状になる「表」または「テンプレート」を紙の様式またはワープロの文書ファイルとして作成しておく、紹介状が容易に作成できる。

注：「御侍史」と書かれることもあるが、「侍史」自体に「貴人の傍に侍る侍史(じし、書き役の人の意)を経て差し上げる」すなわち相手に直接差しあげることをはばかるという謙遜の意があることから、ここでは単に「侍史」とした。

## 紹介状の実例

以下に挙げるのは、薬剤師の紹介状と紹介された患者を診療した医師から薬剤師にあてた診療情報提供書の例である。医療機関の休診日(日曜日)に来局した来局者が翌日(月曜日)に紹介された病院を訪れ、医師の診察を受けて、疾病の治療が始まったことが読みとれる。地域における医療連携の好例である。

## 薬剤師からの患者紹介状

患者紹介状	
〇〇〇〇先生侍史	
いつもお世話になってありがとうございます。	
この度、2月19日(日)に来局されました患者さん、□□□□様(昭和13年4月1日生、73歳)をご紹介します。	
ひどい息苦しさとお切れ(とくに歩行時など)があり(頻脈+)、薬を求めて来局されましたが、食欲も(1か月以上)なく、口渇などの症状を訴えておりますので受診するように勧めさせていただきました。	
現在のところ、どこにも受診されていません。(服用薬無し)	
なお、当日のbp 146/72 mmHg(血圧)、SP <sub>O</sub> <sub>2</sub> 98%(経皮的動脈血酸素飽和度)でした。	
お忙しいところ恐れ入りますが、よろしくご高診下さいますようお願い申し上げます。	
	平成××年2月19日 △△市□□町1-2-3 〇〇〇〇薬局 薬剤師 ××××

## 上記の患者について医師から薬局に送られた診療情報提供書

診療情報提供書	
〇〇〇〇薬局	
××××先生侍史	
拝啓	
益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より診療に関し、種々ご協力いただき感謝申し上げます。	
さて、本日は患者 □□□□様(S13年4月1日生)をご紹介します。厚く御礼申し上げます。	
	記
□□□□様、2月20日(月)来院されました。	
種々検査の結果、陳旧性肺結核症、肺気腫合併がみられます。また、貧血、前立腺肥大もみられ、さらなる検査の必要があると思われます。	
とりあえず、慢性閉塞性肺疾患(COPD)として、当病院内科〇〇医長にて加療して参りたいと思います。	
以上、とりあえずご報告申し上げます。	
ご紹介ありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。	
	△△市〇〇町4-5-6 ××××病院 医師 〇〇〇〇

(事例提供：つちばし薬局 薬剤師 藤原英彦氏)